


海外派遣研修助成事業による研究の成果

研究者氏名	福島 卓矢 
所属機関	長崎大学病院リハビリテーション部
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	MASCC/ISOO Annual Meeting on Supportive Care in Cancer (MASCC) 2018
渡航期間	自 平成 30 年 6 月 27 日 至 平成 30 年 7 月 2 日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	「Effect of low-intensity exercise therapy on the physical function, and mental and physical symptoms of patients with hematologic malignancy undergoing chemotherapy」
<p>研究成果（要約：800 字）</p> <p>今回、国際的な視点から先進的なサポータティブケアの知識・技術の向上を図ることを目的に、オーストリアのウィーンで行われた MASCC/ISOO の Annual Meeting on Supportive Care in Cancer 2018 に参加した。</p> <p><u>1. 研究報告</u></p> <p>「Effect of low-intensity exercise therapy on the physical function, and mental and physical symptoms of patients with hematologic malignancy undergoing chemotherapy」というテーマで、血液がん患者に対する低強度運動療法の影響について報告した。具体的には、臨床で実施している運動介入の効果検証という位置づけで、縦断的観察研究によって運動介入の影響を検討し、その結果、たとえ低強度であっても高頻度で実施された場合は、筋・身体機能、精神・身体症状、QOL に好影響を及ぼす可能性を報告した。報告後は、具体的な介入内容、研究デザインも含めた今後の研究の展開、運動療法そのものが実施できない対象者に対する治療戦略の検討など様々な点についてディスカッションすることができた。本学会を通して、今後の研究の発展に繋がる有意義な情報共有の場をいただいた。</p> <p><u>2. シンポジウム聴講</u></p> <p>「The evolving Approach to Management of Cancer-Cachexia Syndrome」のセッションにて、がん悪液質の病態、マネジメント方法、介入研究の実際など最新の知見を習得し、さらに演者とディスカッションすることで理解を深めた。また、「Post-Chemotherapy Cognitive Impairment」のセッションでは、小児～高齢者における化学療法に伴う認知機能障害の病態仮説、臨床評価手技、介入方法に至るまで、新たな知識を得ることができた。</p>	